

第4次八幡浜市子ども読書活動推進計画

八幡浜市教育委員会

目次

第1章 計画策定の趣旨	1
1 計画策定の背景	1
2 計画の対象と期間	1
第2章 子どもの読書の現状（アンケート結果）	2
1 保育所・幼稚園	2
2 小学生	5
3 中学生	9
4 小・中・高等学校	13
第3章 子どもの読書活動を推進するための施策	14
1 家庭・地域における子ども読書活動の推進	14
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	
2 保育所・幼稚園における子ども読書活動の推進	15
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	
3 学校における子ども読書活動の推進	16
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	
4 図書館における子ども読書活動の推進	17
(1) 役割	
(2) 現状と課題	
(3) 施策の方向	

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の背景

(1) 国の動向

- 平成13年12月 「子どもの読書活動の推進に関する法律」制定
- 平成14年8月 「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定
(第1次基本計画)
- 平成20年3月 第2次基本計画策定
- 平成25年5月 第3次基本計画策定
- 平成30年4月 第4次基本計画策定
- 令和5年4月 第5次基本計画策定

(2) 県の動向

- 平成16年3月 「愛媛県子ども読書活動推進計画」(第1次計画)策定
- 平成21年3月 第2次計画策定
- 平成26年3月 第3次計画策定
- 平成31年3月 第4次計画策定
- 令和6年3月 第5次計画策定

(3) 八幡浜市の動向

- 平成21年 「八幡浜市子ども読書活動推進計画」(第1次計画)策定
- 平成28年 第2次計画策定
- 令和2年 第3次計画策定

八幡浜市では、子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、国及び県の計画を基本として八幡浜市子ども読書活動推進計画を策定し、子どもの読書活動を推進してきました。第3次計画の期間が令和8年3月に終了するため、取組の成果や課題を踏まえた上で子どもの読書活動をより推進することを目的とした第4次計画を策定します。

2 計画の対象と期間

八幡浜市子ども読書活動推進計画は、0歳から概ね18歳までの子どもを対象とし、期間は令和8年(2026年)4月～令和13年(2031年)3月までの5年間とします。

第2章 子どもの読書の現状（アンケート結果）

第4次計画を策定にあたり、八幡浜市内での子どもの読書に関する現状を把握するため、第3次計画策定の際に実施したアンケート（令和2年11月）を基にしたアンケートを令和7年11月に実施しました。

1 保育所・幼稚園

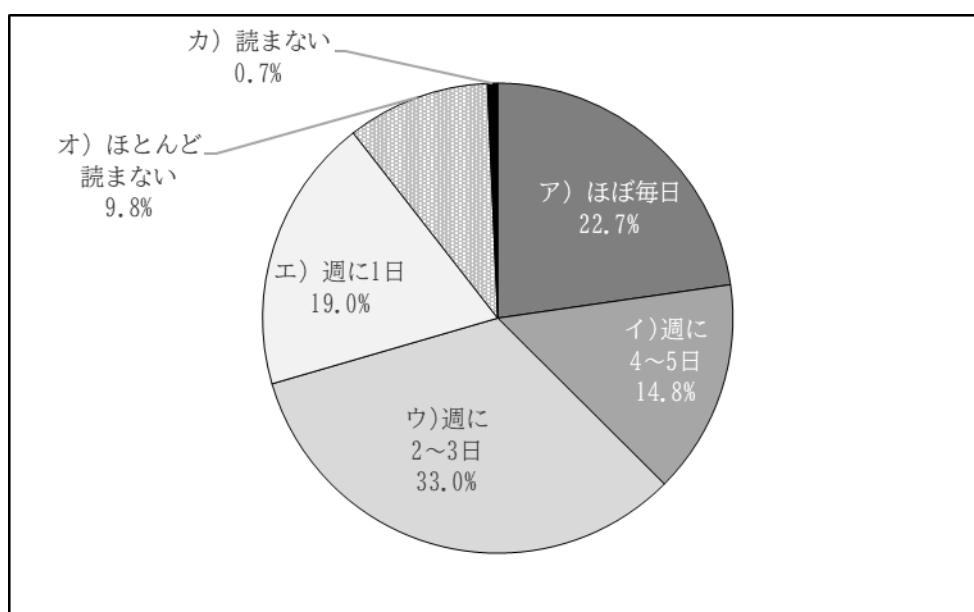
（1）本を読むことについて

調査年度	本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない
H27	505人 (93.9%)	33人 (6.1%)
R2	591人 (92.8%)	46人 (7.2%)
R7	394人 (93.1%)	29人 (6.9%)

本を読む（聞く）ことが好きな子ども割合は、前回調査と比較するとほとんど変化はありませんが微増しています。

(2) 1週間で本を読む頻度について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 4～5日	ウ) 週に 2～3日	エ) 週に 1日	オ) ほとんど 読まない	カ) 読まない
H27	114人 (20.9%)	78人 (14.3%)	227人 (41.7%)	94人 (17.2%)	28人 (5.1%)	4人 (0.7%)
R2	137人 (24.8%)	95人 (17.2%)	194人 (35.1%)	93人 (16.8%)	24人 (5.2%)	5人 (0.9%)
R7	97人 (22.7%)	63人 (14.8%)	141人 (33.0%)	81人 (19.0%)	42人 (9.8%)	3人 (0.7%)

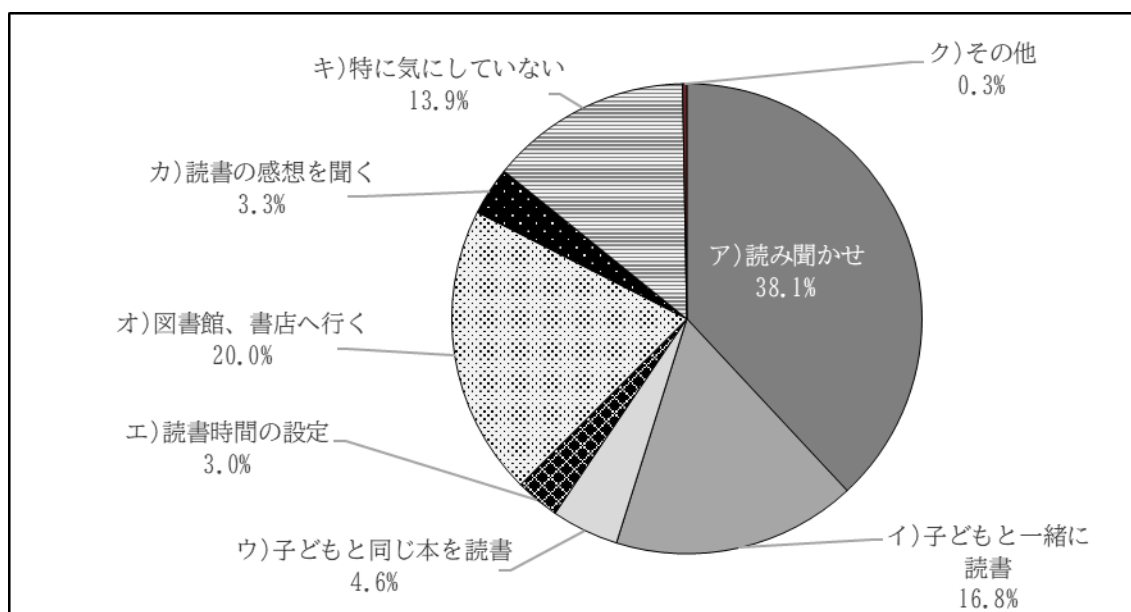


(令和7年度)

1週間で本を読む頻度は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に4～5日」「週に2～3日」の割合が減少し、「週に1日」「ほとんど読まない」の割合が増加しています。全体的に読書をする親子が減少しています。

(3) 読書を促すための家庭での取組について (複数回答可)

調査年度	ア) 読み聞かせ	イ) 子どもと一緒に読書	ウ) 子どもと同じ本を読書	エ) 読書時間の設定
H27	361人 (36.2%)	197人 (19.8%)	74人 (7.4%)	28人 (2.8%)
R2	363人 (36.3%)	187人 (18.7%)	56人 (5.6%)	37人 (3.7%)
R7	263人 (38.1%)	116人 (16.8%)	32人 (4.6%)	21人 (3.0%)
調査年度	オ) 図書館、書店へ行く	カ) 読書の感想を聞く	キ) 特に気にしていない	ク) その他
H27	191人 (19.2%)	36人 (3.6%)	96人 (9.6%)	13人 (1.3%)
R2	199人 (19.9%)	46人 (4.6%)	102人 (10.2%)	9人 (0.9%)
R7	138人 (20.0%)	23人 (3.3%)	96人 (13.9%)	2人 (0.3%)



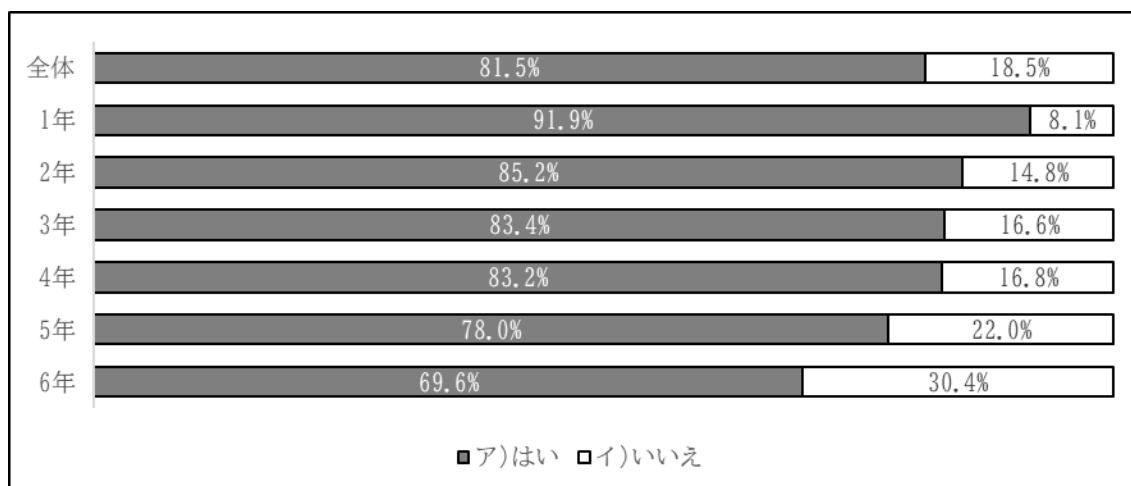
(令和7年度)

読書を促すための家庭での取組は、前回調査と比較して全体的な傾向に大きな変動は見られませんでした。しかし、「特に何もしていない」家庭の割合が13.9%に増加しているため、引き続き家庭に対する読書活動の啓発が必要です。

2 小学生

(1) 本を読むことについて

調査年度	本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない
H27	1,278 人 (84.4%)	236 人 (15.6%)
R2	1,051 人 (80.4%)	257 人 (19.6%)
R7	865 人 (81.5%)	196 人 (18.5%)

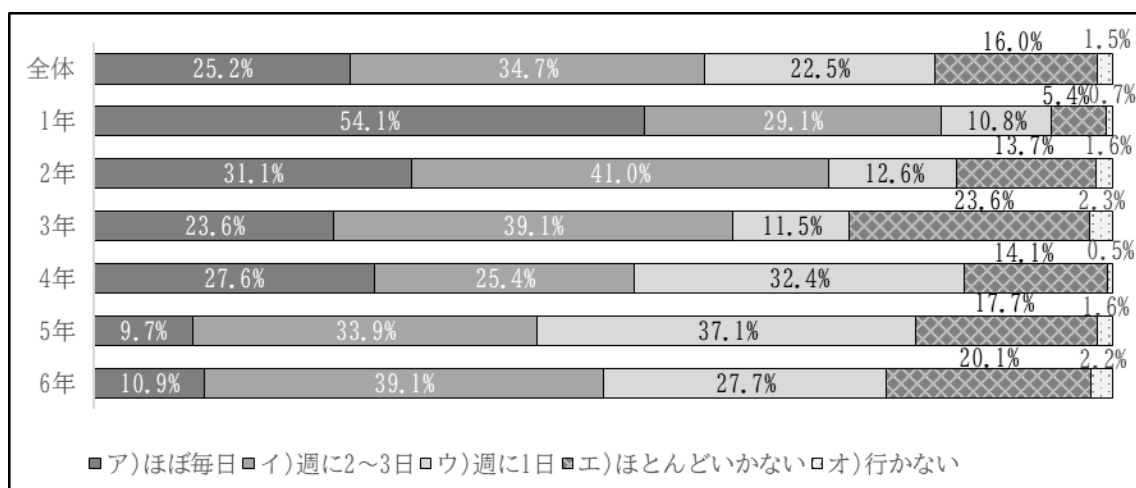


(令和7年度)

本を読む（聞く）ことが好きな児童の割合は、前回調査と比較すると微増しています。学年が上がるにつれて読書を好まない児童が増加しています。読書に対して興味を持たせる、苦手意識をなくすような対策が必要です。

(2) 学校図書館の利用について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 2～3日	ウ) 週に 1日	エ) ほとんど 行かない	オ) 行かない
H27	469人 (31.0%)	537人 (35.5%)	282人 (18.6%)	211人 (13.9%)	15人 (1.0%)
R2	380人 (29.1%)	542人 (41.5%)	268人 (20.5%)	109人 (8.3%)	7人 (0.5%)
R7	267人 (25.2%)	368人 (34.7%)	239人 (22.5%)	170人 (16.0%)	16人 (1.5%)

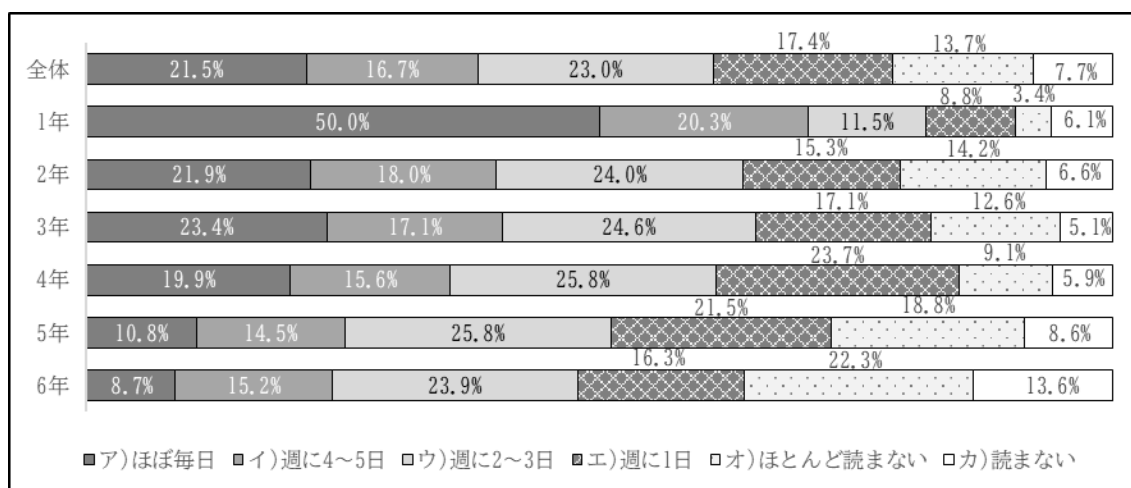


(令和7年度)

学校図書館の利用は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」「週に2～3日」が減少しています。「週に1日」、「ほとんど行かない」、「行かない」が増加しており、全体的には、利用頻度が減少しています。

(3) 1週間で本を読む頻度について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 4～5日	ウ) 週に 2～3日	エ) 週に 1日	オ) ほとんど 読まない	カ) 読まない
H27	504人 (33.3%)	260人 (17.2%)	293人 (19.4%)	201人 (13.3%)	175人 (11.6%)	79人 (5.2%)
R2	335人 (25.6%)	200人 (15.3%)	337人 (25.8%)	174人 (13.3%)	198人 (15.1%)	64人 (4.9%)
R7	228人 (21.5%)	177人 (16.7%)	244人 (23.0%)	185人 (17.4%)	146人 (13.7%)	82人 (7.7%)

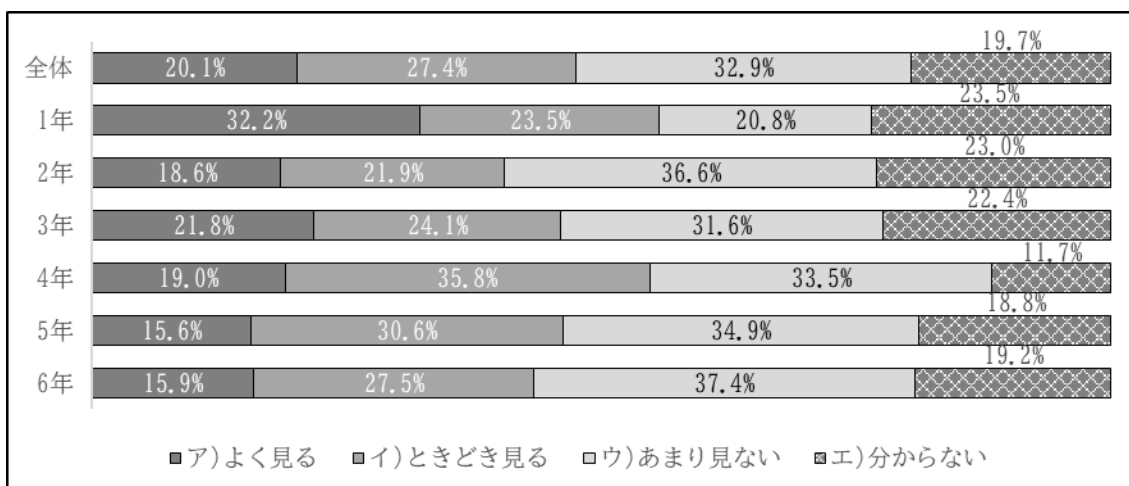


(令和7年度)

1週間で本を読む頻度は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に2～3日」、「ほとんど読まない」が減少し、「週に4～5日」、「読まない」が増加しています。全体的に本を読む頻度が減少しています。特に、学年が上がるにつれて「ほぼ毎日」読書する児童の割合が減少しています。

(4)家庭での読書環境について (家の人の読書状況)

調査年度	ア) よく見る	イ) とときどき見る	ウ) あまり見ない	エ) わからない
R7	212 人 (20.1%)	288 人 (27.4%)	346 人 (32.9%)	207 人 (19.7%)



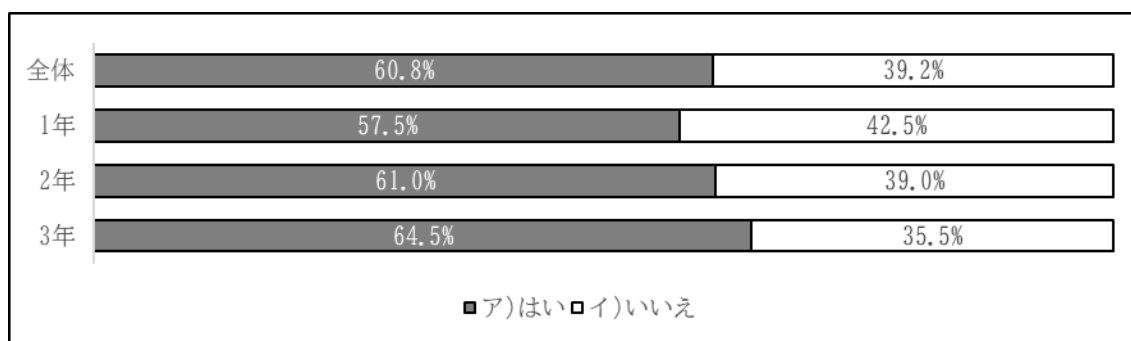
(令和7年度)

家の人の読書状況と小学生が1週間で本を読む頻度については、表を比較すると学年が上がるにつれて、家の人が本を読むのを見る割合が減ってきて、小学生の本を読む頻度も下がっています。

3 中学生

(1) 本を読むことについて

調査年度	本を読む（聞く）のが好き	本を読む（聞く）のが好きではない
H27	667人 (76.6%)	204人 (23.4%)
R2	468人 (67.3%)	227人 (32.7%)
R7	330人 (60.8%)	213人 (39.2%)

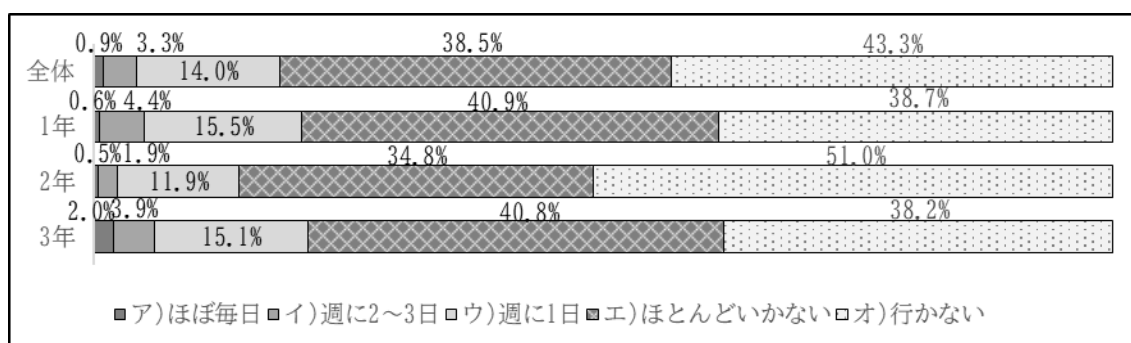


(令和7年度)

本を読む（聞く）ことが好きな生徒の割合は、前回調査と比較すると減少しています。ただ、中学生は小学生と違い、学年が上がるにつれて読書が好きな生徒が増加しています。

(2) 学校図書館の利用について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 2～3日	ウ) 週に 1日	エ) ほとんど 行かない	オ) 行かない
H27	50人 (5.7%)	140人 (16.0%)	191人 (21.9%)	326人 (37.3%)	166人 (19.0%)
R2	9人 (1.3%)	51人 (7.4%)	127人 (18.3%)	357人 (51.5%)	149人 (21.5%)
R7	5人 (0.9%)	18人 (3.3%)	76人 (14.0%)	209人 (38.5%)	235人 (43.3%)

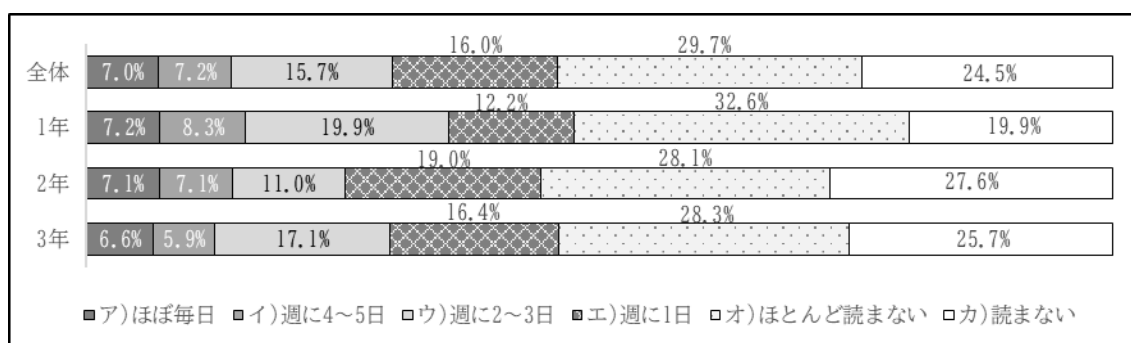


(令和7年度)

学校図書館の利用は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に2～3日」、「週に1日」、「ほとんど行かない」が大きく減少し、「行かない」が大きく増加しています。全体的に利用頻度が減少しています。

(3) 1週間で本を読む頻度について

調査年度	ア) ほぼ毎日	イ) 週に 4～5日	ウ) 週に 2～3日	エ) 週に 1日	オ) ほとんど 読まない	カ) 読まない
H27	144人 (16.5%)	92人 (10.5%)	198人 (22.7%)	150人 (17.2%)	175人 (20.0%)	114人 (13.1%)
R2	66人 (9.1%)	58人 (8.0%)	136人 (18.8%)	132人 (18.3%)	209人 (28.9%)	122人 (16.9%)
R7	38人 (7.0%)	39人 (7.2%)	85人 (15.7%)	87人 (16.0%)	161人 (29.7%)	133人 (24.5%)

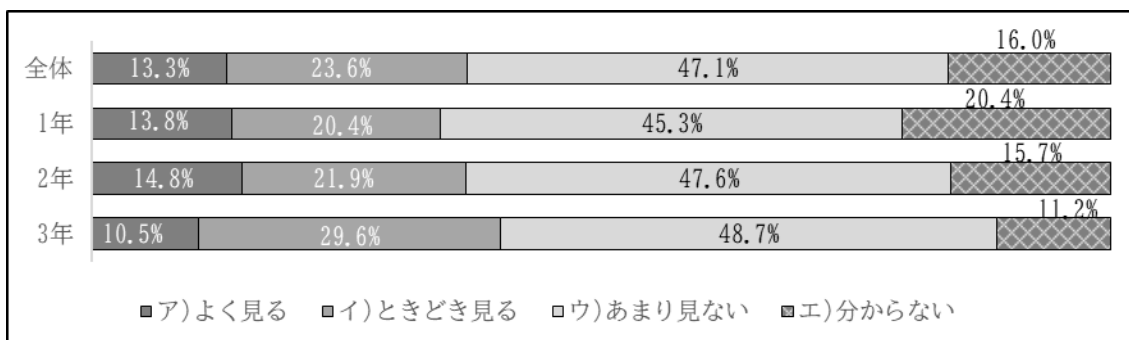


(令和7年度)

1週間で本を読む頻度は、前回調査と比較すると「ほぼ毎日」、「週に4～5日」、「週に2～3日」、「週に1日」が減少し、「ほとんど読まない」、「読まない」が増加しています。全体的に本を読む頻度が減少しています。

(4)家庭での読書環境について (家の人の読書状況)

調査年度	ア) よく見る	イ) とときとき見る	ウ) あまり見ない	エ) わからない
R7	72人 (13.3%)	128人 (23.6%)	256人 (47.1%)	87人 (16.0%)



(令和7年度)

家の人の読書状況と中学生が1週間で本を読む頻度については、家の人の読書をよく見る割合と中学生がア) ほぼ毎日、イ) 週に4~5日、本を読む割合が近いことが分かります。

4 小・中・高等学校（小学校 12 校、中学校 2 校(H27 年度: 7 校、R2 年度 5 校)、高等学校 3 校)

(1) 学校図書館専任職員配置状況について

調査年度	小学校	中学校	高等学校
H27	0 校(0%)	0 校(0%)	0 校(0%)
R2	0 校(0%)	0 校(0%)	0 校(0%)
R7	0 校(0%)	0 校(0%)	1 校(33.3%)

(2) 朝読書実施状況について

調査年度	小学校	中学校	高等学校
H27	11 校(91.7%)	7 校(100%)	3 校(100%)
R2	12 校(100%)	5 校(100%)	3 校(100%)
R7	12 校(100%)	2 校(100%)	3 校(100%)

(3) 読み聞かせ実施状況について

調査年度	小学校	中学校	高等学校
H27	12 校(100%)	2 校(28.6%)	1 校(33.3%)
R2	12 校(100%)	2 校(40%)	1 校(33.3%)
R7	11 校(91.7%)	0 校(0%)	0 校(0%)

学校図書館の専任職員については、高校で 1 校配置（期間限定で会計年度職員を配置）されていますが、閉校に伴う図書室の整理のためという理由であるため、利用促進のための配置は今後も難しい状況であると思われます。

（小・中学校では、7 学級以上の学校に司書教諭を配置しています。）

朝読書はすべての学校で実施、読み聞かせは 12 小学校の内 11 小学校で実施されています。

学校図書館は、「図書館資料を児童生徒や教員の利用に供することにより学校教育課程の展開に寄与するとともに、児童生徒の健全な教養を育成すること」を目的としています。学校図書館の充実には蔵書・人材の双方の充実が求められます。

第3章 子どもの読書活動を推進するための施策

1 家庭・地域における子ども読書活動の推進

(1) 役割

「子どもの読書活動の推進に関する法律」では、「子どもの読書活動は、子どもが言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、想像力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠かせないものである」と定められています。

読書活動を習慣化するためには、乳幼児期から子どもの発達にあわせた読書への働きかけを推進することが重要です。子どもが最初に本と出会う場所は、家庭です。家庭での読み聞かせは、親子のつながりを深め、子どもの健やかな成長を育みます。子どもの身近に本がある環境を整え、読み聞かせの体験を行うことで、読書習慣を身につけることができます。

(2) 現状と課題

ブックスタート事業は、5ヶ月の赤ちゃんを対象に絵本を2冊プレゼントして絵本を通して子どもと保護者の心温まる時間が持てるよう家庭を支援しています。

セカンドブック事業は、3歳児を対象に絵本を1冊プレゼントして親子の触れ合いを深め、読書習慣の定着づくりをしています。

児童センターや公民館などの各施設に訪問して、読み聞かせボランティアとともにおはなし会を実施しています。

読み聞かせボランティアは両図書館で活動しています。

(市民図書館…あいうえおはなし会、保内図書館…ゆめいろぽけっとおはなし会)

しかし、1週間で1日も本を読まない・ほとんど読まない(読み聞かせ含む)子どもが10.5%(P3)と増加しており、読書活動の啓発を推進する必要があります。

(3) 施策の方向

- 保護者に対する読書活動への理解の促進を図ります。
- 家庭での読み聞かせを推進します。

家庭や地域において、子どもが読書に親しむ環境をつくるためにさまざまな機会を通じて、保護者等に読書活動の重要性を啓発します。

ブックスタート事業及びセカンドブック事業において、保護者への読み聞かせの楽しさや大切さを伝え、図書館の利用に繋がります。

児童センターや公民館などの各施設と引き続き連携・協力し、本に触れる機会を増やします。

絵本の読み聞かせや選書についての講座を行うほか、絵本作家の講演会も開催し、絵本の魅力を伝える機会を作ります。

- 読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。
読み聞かせの技術を向上させる研修会の開催や、新たな会員の募集を周知し、読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。

2 保育所・幼稚園における子ども読書活動の推進

(1) 役割

この時期の読書活動は、言葉の理解や知識の習得に必要であり、豊かな想像力や感性を育むことができます。読書に親しめる環境づくりを保護者に働きかけることも必要です。

(2) 現状と課題

幼稚園・保育所では、絵本の読み聞かせが日常の教育・保育活動の一環として行われています。

アンケートから、ほとんどの乳幼児は本を読むのが好き 93.1%(P2)であり家庭では様々な読書を促すための取組をしています。前回の調査結果と大きな変化もありません。多くの家庭で、読み聞かせの意義が理解されているようです。

しかし、読書を促すための取組を「特に何も気にしていない」家庭が 13.9%(P4)と増加しており、読書活動の啓発を推進する必要があります。

(3) 施策の方向

- 保護者に対する読書活動への理解の促進を図ります。
- 家庭での読み聞かせを推進します。
子どもが本に親しめるよう読み聞かせを継続します。
家庭での読み聞かせの大切さを保護者に啓発します。
- 幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深めます。
幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深め、読書活動の情報を交換します。
大型絵本の貸出や団体貸出を行います。

3 学校における子ども読書活動の推進

(1) 役割

学校は子どもが多く時間を過ごす場所であり、読書習慣の基礎を作るうえで大きな役割を担っています。子どもたちが読書の楽しさを知り、生涯にわたって本に親しむには、子どもたちの成長に応じた読書活動の機会や環境を提供することが大切です。

(2) 現状と課題

各小・中学校の学校図書館主任で構成されている学校図書館部会では、読書感想文コンクールや読書感想画コンクールを実施するなど、日常の読書指導の充実を図るための研修を実施しています。

また、各小・中学校においては、学校図書館の蔵書の更新、読書ビンゴや図書委員会による本さがし大会などの活動、ビブリオバトルの実施や学級文庫、さまざまな教科での図書利用、読み聞かせ、朝読書活動などにより、読書習慣の定着に努めています。

アンケートから、学校図書館の利用について「ほぼ毎日利用している」小学生は全体の25.2%(P6)ですが、中学生になると全体の0.9%(P10)へ、「週に2～3日利用している」小学生は全体の34.7%(P6)ですが、中学生になると全体の3.3%(P10)へそれぞれ激減します。

一方、学校図書館を利用していない小学生は、全体の1.5%(P6)であるのに対し、中学生は43.3%(P10)にのぼります。

小学生と中学生の間に大きな開きがみられる傾向は、令和2年度の調査から更に開きが大きくなっています。児童書からYA図書(一般書)に切り替わる年齢に応じた本との出会いの場や機会を創出する必要があります。

また障がいのある子どもへの読書機会の充実も必要です。

(3) 施策の方向

- ブックトーク事業や団体貸出制度などの図書館サービスを周知し、小・中学校と市立図書館の連携を深めます。

図書館見学、職場実習などを受け入れます。

図書館が小・中学校へ訪問するみかんぼんぼん文庫などを実施し、図書館利用の拡大に努めます。

読み聞かせ・朝読書で小・中学校を訪問し、読書の楽しさを伝えます。

調べ学習などで図書館資料を貸出して、学校を支援します。

- 週に一度も読書をしない小学生の7.7%(P7)、中学生の24.5%(P11)が減

るように努めます。

こどもの読書週間行事や夏休み読書マラソンなどのイベントで図書館利用の拡大に努めます。

読書を好まない子どもが興味を持つような図書の購入に努めます。

4 図書館における子ども読書活動の推進

(1) 役割

図書館は、子どもにとって多くの本と出会い、読書の楽しさを知り、知識や情報を得ることができる場所です。

読書活動の推進拠点として、すべての子どもが本に親しみ、楽しむことができるよう、子どもが利用しやすい環境の整備に努める必要があります。

(2) 現状と課題

表1は、蔵書数に占める児童書数及びYA*図書数の割合を示しています。両図書館ともに児童書及びYA図書の所蔵は、年々増加しています。各年代の子どもが興味・感心を高められるよう今後も児童書及びYA図書の積極的な購入が必要になります。

表1 蔵書数に占める児童書数及びYA図書数の割合

年度		R2	R3	R4	R5	R6
市民図書館	蔵書数(A)	194,910	199,366	202,710	206,670	209,039
	児童書数(B)	49,212	50,356	51,354	52,725	52,671
	YA 図書数(C)	1,340	1,411	1,442	1,524	1,507
	蔵書数に占める児童書数及びYA 図書数の割合 ((B+C)/ A)	25.9%	26.0%	26.0%	26.2%	25.9%
保内図書館	蔵書数(A)	99,347	102,087	103,268	102,370	103,016
	児童書数(B)	33,018	33,971	34,830	34,424	35,048
	YA 図書数(C)	4,720	4,947	4,884	4,869	4,940
	蔵書数に占める児童書数及びYA 図書数の割合 ((B+C)/ A)	38.0%	38.1%	38.5%	38.4%	38.8%

※YA (ヤングアダルト) : 中高生を中心とした10代の世代

表2. 年齢別実利用割合から、令和元年度と令和6年度の実利用割合を比較すると7～9歳と13～15歳が大きく減少しています。7～9歳の小学校低学年については、保護者と一緒に参加してもらおうイベント等を企画して小学生が図書館に来る機会を増やすことが必要です。13～15歳の中学生については、YA図書のさらなる充実や中高生をターゲットにしたイベントを開催するなどの対策が必要です。

表2 年齢別実利用割合

年齢	調査年度	実利用人数	人口 (H27. 3. 31) (R2. 3. 31) (R7. 3. 31)	実利用割合
6歳以下	H26	342	1,516	22.6%
	R1	383	1,248	30.7%
	R6	254	946	26.8%
7～9歳	H26	397	735	54.0%
	R1	375	647	58.0%
	R6	279	555	50.3%
10～12歳	H26	383	831	46.1%
	R1	329	718	45.8%
	R6	245	575	42.6%
13～15歳	H26	205	913	22.5%
	R1	174	777	22.4%
	R6	109	681	16.0%
16～18歳	H26	131	986	13.3%
	R1	79	782	10.1%
	R6	82	696	11.8%
合計	H26	1,458	4,981	29.3%
	R1	1,340	4,172	32.1%
	R6	969	3,453	28.1%

表3. 団体貸出利用冊数によると、団体貸出の利用が年々増加しています。平成30年から、市民図書館はみかんぽんぽん文庫事業を実施、保内図書館は巡回絵本事業を実施しており、大きく貸出数が増加しています。今後は団体貸出の利用者を図書館の利用者につなげる工夫が求められます。

令和4年度より移動図書館車を更新し、運行日程及びステーションを変更したため市民図書館の数字が急増しています。

表3 団体貸出利用冊数

年度	H27	H28	H29	H30	R1
市民図書館	1,155	1,638	2,400	3,212	3,409
保内図書館	2,053	2,052	2,103	2,532	2,461
合計	3,208	3,690	4,503	5,744	5,870

年度	R2	R3	R4	R5	R6
市民図書館	3,205	3,145	10,606	18,946	19,934
保内図書館	1,854	1,664	1,858	1,599	2,585
合計	5,059	4,809	12,464	20,545	22,519

※図書館、相互貸借を除く

表4. 市内小学生の市立図書館利用者カード登録者数によると、市内小学校で登録率 50%を下回っている学校数は、令和2年度の2校から令和7年度の1校に減少しました。

前回調査と比べ、増加した学校と減少した学校が混在する結果となりました。学校や地域ごとの取組状況や周知のあり方によって成果に差が生じている可能性も考えられます。今後は、より効果的な周知や支援の方法を検討していきます。

表4. 市内小学生の市立図書館利用者カード登録者数

選択肢	調査年度	全体	松蔭	白浜	江戸岡	神山	千丈	日土	真穴	川上	双岩	喜須来	川之石	宮内
ア)作成している	H27	947	95	134	91	120	68	37	18	14	25	81	90	174
		62.5%	73.1%	66.7%	61.5%	54.3%	46.9%	61.7%	40.9%	36.8%	54.3%	58.7%	78.9%	76.0%
	R2	853	80	106	83	106	66	52	16	11	22	103	63	145
		65.3%	69.0%	70.7%	58.9%	56.4%	60.0%	67.5%	35.6%	42.3%	66.7%	71.5%	69.2%	78.4%
	R7	658	50	58	59	100	41	23	26	19	20	99	31	132
		62.0%	63.3%	51.3%	54.1%	54.9%	60.3%	57.5%	61.9%	65.5%	66.7%	83.2%	41.9%	75.0%
イ)未作成	H27	567	35	67	57	101	77	23	26	24	21	57	24	55
		37.5%	26.9%	33.3%	38.5%	45.7%	53.1%	38.3%	59.1%	63.2%	45.7%	41.3%	21.1%	24.0%
	R2	453	36	44	58	82	44	25	29	15	11	41	28	40
		34.7%	31.0%	29.3%	41.1%	43.6%	40.0%	32.5%	64.4%	57.7%	33.3%	28.5%	30.8%	21.6%
	R7	403	29	55	50	82	27	17	16	10	10	20	43	44
		38.0%	36.7%	48.7%	45.9%	45.1%	39.7%	42.5%	38.1%	34.5%	33.3%	16.8%	58.1%	25.0%

※10%以上増えたところに薄く色づけし、減ったところに濃く色づけしています。

表5. 市内中学生の市立図書館利用者カード登録者数によると、市内中学校で登録率は減少しています。

学業や部活動による時間的制約に加え、電子媒体の普及など生活環境の変化が要因の一つと考えられます。今後は中学生の生活実態に配慮した利用促進の取組や、学校と連携した周知の工夫が必要です。

表5. 市内中学生の市立図書館利用者カード登録者数

選択肢	調査年度	全体	八幡浜	保内
ア)作成している	H27	607	409	198
		69.6%	69.4%	70.0%
	R2	442	260	182
		63.9%	60.7%	68.9%
	R7	304	189	115
		56.0%	57.6%	53.5%
イ)未作成	H27	265	180	85
		30.4%	30.6%	30.0%
	R2	250	168	82
		36.1%	39.3%	31.1%
	R7	239	139	100
		44.0%	42.4%	46.5%

※10%以上減ったところに濃く色づけしています。

※八幡浜中は過年度調査の愛宕・八代・双岩・松柏・真穴、保内中は過年度調査の青石・保内を合算したもの

(3) 施策の方向

- 子どもが本を手取るようになるには、子どもの周囲の大人の理解不可欠となるため、大人に対しても読書活動への理解の促進を図ります。
- 家庭での読み聞かせを推進します。

家庭や地域において、子どもが読書に親しむ環境をつくるためにさまざまなきっかけづくりを実施し、その機会を通じて読書活動の重要性を啓発します。

ブックスタート事業及びセカンドブック事業において、保護者への読み聞かせの楽しさや大切さを伝え、図書館の利用に繋がります。

児童センターや公民館などの各施設と引き続き連携・協力し、本に触

れる機会を増やします。

- 読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。
読み聞かせ技術を向上させる研修会の開催や、新たな会員の募集を周知し、読み聞かせボランティア団体の活動を支援します。
- 幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深めます。
幼稚園・保育所と市立図書館の連携を深め、読書活動の情報を交換します。
大型絵本の貸出や団体貸出を行います。
- ブックトーク事業や団体貸出制度などの図書館サービスを周知し、小・中学校と市立図書館の連携を深めます。
図書館見学、職場実習などを受け入れます。
図書館が小・中学校へ訪問するみかんぼんぼん文庫などを実施し、図書館利用の拡大に努めます。
読み聞かせ・朝読書で小・中学校を訪問し、読書の楽しさを伝えます。
調べ学習などで図書館資料を貸出して、学校を支援します。
- 週に一度も読書をしない小学生の4.9%(P6)、中学生の16.9%(P9)が減るように努めます。
こどもの読書週間行事や夏休み読書マラソンなどのイベントで図書館利用の拡大に努めます。
読書を好まない子どもが興味を持つような図書の購入に努めます。
- 障がいのある子どもの読書機会の充実を図ります。
録音図書、点字絵本等の購入や読書バリアフリーに向けた読書環境について寄附金等を活用して整備します。
職員が読書バリアフリーに関する研修を受け、資質の向上を図ります。
- 移動図書館を積極的にPRし、図書館から遠方にある地域の方の利用促進を促します。
- 図書館アプリの周知を積極的に行い、小さいお子さんから高齢者まで利用しやすい図書館に努めます。
- 図書館HP、Facebook（八ちゃんねる）、広報、八西CATVなどを通じて積極的に図書館情報を発信します。